

子息孫左衛門尉、高島織部、中河清六、國侍ニ長九郎左衛門尉、其外名アル侍共、都合其勢三千餘騎入置給フ、

〔嚴島道芝記〕社家供僧内侍并諸役人神人之名

長。監物同○某

冒母黨苗字

〔諸家系圖纂十九〕内藤總系圖

本多藤四郎依母姓號本多

〔寛永諸家系圖傳百九十六〕藤井

勝重○中略

いとけなふして父吉政におくれ、稱號をわきまへず、このゆゑに母氏をとりて藤井と稱す、

〔寛永諸家系圖傳二百二十二〕齋藤

幸保○中略

幸保、病者たるゆゑ、父○信が命により、櫻井をあらため、母氏ををかして齋藤と號す、

冒巨族苗字

〔織田信長譜〕天正二年十二月、信長執奏、以秀吉任筑前守、河尻與兵衛任肥前守、塙九郎左衛門、改號

原田備中守、築田左衛門太郎、改號別喜右近、右筆武井夕庵、任二位法印、友閑任宮内卿法印、既而歸

岐阜信長謂、今所領之地、猶未能大封功臣、他日併吞西國、則可使功臣續古昔豪士之家、以富之、故向謂丹羽稱、惟住謂明智稱、惟任、今又改號原田、改築田號、別喜、皆是九州豪士之稱號也、

〔豐鑑一〕長濱真砂〕信長鷹狩を好み、日毎に狩に出給ふに、一日もおこたらず、わら沓をわれととりは

く様にて物せしが、かしこさ人に勝れぬれば、次第にときめき、ずさなどを持って、木下藤吉郎とな

んよばれし、其比信長の心に叶ひの、しる柴田修理亮勝家、丹羽越前守長秀とかや、いひしかば、

其人の名字を一字づゝたまはらんとて、丹羽の羽に柴田の柴をそへ、羽柴筑前守と改給しと也、

歸化人用苗字

〔皇國名醫傳後篇上〕西玄甫